いぶき33号　平成25年10月

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第31回：アレッサンドロ・ヴァリニャーノ（1539～1606年）

「人々はいずれも色白く、きわめて礼儀正しい。一般庶民や労働者でもその社会では驚嘆すべき礼節をもって上品に育てられ、あたかも宮廷の使用人のように見受けられる。この点においては、東洋の他の諸民族のみならず、我らヨーロッパ人よりも優れている。

国民は有能で、秀でた理解力を有し、子供たちは我らの学問や規律をすべてよく学びとり、ヨーロッパの子供たちよりも、はるかに容易に、かつ短期間に我らの言葉で読み書きすることを覚える。また下層の人々の間にも、我らヨーロッパ人の間に見受けられる粗暴や無能力ということがなく、一般にみな優れた理解力を有し、上品に育てられ、仕事に熟達している。

…（米しか作られない）したがって一般には庶民も貴族もきわめて貧困である。ただし彼らの間では、貧困は恥辱とは考えられてはいないし、ある場合には、彼らは貧しくとも清潔にして丁重に待遇されるので、貧苦は他人の目につかないのである。貴人は大いに尊敬され、一般にはその身分と地位に従って多数の従者を伴っている。

（中略）日本人はきわめて忍耐強く、飢餓や寒気、また人間としてのあらゆる苦しみや不自由を堪え忍ぶ。それは、もっとも身分の高い貴人の場合も同様である。が、幼少の時から、これらあらゆる苦しみを甘受するような習慣づけて育てられるからでしょう。」

【出典：『日本巡察記』ヴァリニャーノ著、松田毅一他訳（東洋文庫229 平凡社）】

ヴァリニャーノはイタリア出身のイエスズ会司祭で、巡察師として三度来日し、キリスト教の布教事業の指導的役割を果たした人物です。1539年にナポリ王国のキエーティ市で名門貴族の家に生まれ、パドヴァ大学で神学を学んで1566年にイエスズ会に入会しました。その非凡の能力を認められ、1579年(天正7年)に巡察師として初めて日本を訪れ、織田信長に歓迎されて「天正遣欧少年使節行」を立案・実施しています。この第１回目の日本巡察に基づいて1583年に執筆されたのが『S.I.SUMARIO de las cosas de Japón（日本諸事要録）』です。本書は長らくイエスズ会の機密文書として眠っていましたが、1954年に『日本巡察記』として出版されました。ローマカトリックの内部文書なので日本人に媚びる必要などなく、第三者的目線で書かれている訳ですが、当時の日本人を非常に高く評価しています。この本には「・・・賢明で遠慮深く、かつよく学ぶことは驚嘆するばかりである。子供でも大人のように三、四時間もその席から離れないで勉強している」と書かれており、日本人は400年以上も前から極めて勤勉であったことが伺えます。1590年にはわが国で初めての「活字印刷機」を携えて来日し、これを使って後に「キリシタン版」とよばれる書物が出版されました。

【参考：(1) http://www. http://ja.wikipedia.org/wiki
/ヴァリニャーノ、(2) http://www7.plala.or.jp/juraian/jpnrep.htm#Valignano】 〈M.I〉

平成 25 年 10 月 29 日転載